

株式会社 出石まちづくり公社

決算書類

第26期

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日

〔報告事項〕

第26期営業報告（令和5年4月1日～令和6年3月31日まで）

I. 背景と成果

今、日本経済はデフレ脱却の正念場にあります。四半世紀にわたり、我が国は常にデフレとの闘いがその中心にありました。過去における経済報告において、持続的な物価下落をデフレと定義した上で、我が国経済が「緩やかなデフレ」にあると評価しました。デフレ又はデフレではないものの物価上昇率がゼロ近傍で推移する中で、企業ではコストをカットして価格を据え置くという行動が広がりました。そのため、売上げが増加せず、人件費や投資が伸び悩み、経済成長が抑制されて消費者は購買力を失うという悪循環に陥りました。しかし、コロナ、ウクライナ危機による世界的な物価高騰を契機に、「新しい資本主義」の政策もあいまって企業の価格転嫁が進み始め、40年ぶりの物価上昇となりました。こうした物価上昇の下、今年の春闘では、30年ぶりとなる高い水準の賃上げが実現し、我が国の物価や賃金は大きく動き始めていますが、地方における経済状況は大都市圏とは違い、それらの実感がもてていないのが現状であります。

そのような状況の中、当地におきましては今年度来訪観光客入込総数 563,000 人（昨年より 2,000 人減）となり、前年度からは来訪観光客が微減する結果となりました。

今期全体売上は、236,701,461 円（前年対比 103.7%）となり、来訪観光客が伸び悩んでる中、なんとか売上増という結果を残す事ができました。

今年度は、経常利益 12,011,738 円、当期純利益 8,941,709 円（前年対比 82.2%）となり、利益を出すことはできましたが、物価や諸経費高騰の影響もあり減収という結果になりました。

今年度は特に以下の4つの事を重点的に取り組みました。

有子山築城 450 周年事業については実行委員会体制をとり、各諸団体と連携し、SNS を通じた情報発信や PR・450 周年記念グッズ製作・有子山城ハイキングツアーなど積極的に取り組んで参りました。特に有子山城ツアーは好評を頂き、他の山城にはない感動や満足を感じていただける魅力ある観光コンテンツに成長し、「ひょうごフィールドパビリオン」SDGs 体験型地域プログラムに認定されました。

インバウンド受入環境整備の推進については、出石観光案内所を拠点にした、英語表記のまち歩きマップを作成・設置いたしました。また、更なるインバウンド向け商品造成や利便性の内容把握の為、QR コードによる来訪外国人向けのアンケート調査を行い、その結果を基に、豊岡駅発着の路線バスの案内等の環境整備をすすめ、改善点を提案するなど一定の成果がありました。

地域内資源を活用した商品開発については、国の伝統的工芸品である出石焼の認知度を更に高めるために、観光センター売店内に新たな販売スペースを設け季節感を演出し、出石焼を身近に感じただけのように販売展開いたしました。

4年ぶりに開催された永楽館歌舞伎公演への運営連携・協力については、株主優待券の発行・出石町内高校生へのチケット購入補助・歌舞伎バスの運行・公式 SNS を通じた永楽館歌舞伎の広報・PR 活動など精力的に取り組み、9回公演全てチケットが完売し、3,043 人の方が観劇を楽しまれるなど盛況に終えることができました。

II. 当社の概要 (令和6年3月31日現在)

(1) 資本金

区 分	当 期 末
資 本 金	98,000,000 円

(2) 株式の状況

発行済株式総数	1,960 株
当期末株主総数	332 名

大 株 主	保有株数	持ち株比率
豊 岡 市	400 株	20.40%
NPO 法人但馬國出石観光協会	100 株	5.10%
豊 岡 市 商 工 会	60 株	3.06%

(3) 役員 の 状 況

役 職 名	役 員 名
代表取締役社長	榮 木 健 二
代表取締役副社長	古 田 智 久
取 締 役	永 井 秀 和
取 締 役	田 中 覚
取 締 役	中 易 裕 明
取 締 役	永 澤 仁
取 締 役	遠 藤 朱 実
監 査 役	宮 崎 雅 巳
監 査 役	佐 古 忠 隆

(4) 従 業 員 の 状 況

区 分	人 数	構 成
正 社 員	8 人	男性 5 人 女性 3 人
契 約 社 員	4 人	男性 1 人 女性 3 人
パ ー ト 社 員	7 人	女性 7 人
合 計	19 人	

シルバー人材センター (派遣)	6 人	男性 6 人
観 光 ガ イ ド	4 人	男性 1 人 女性 3 人

(5) 事業内容

1. まちづくり活性化推進事業
2. 出石観光散策ガイド事業
3. 総合観光案内事業
4. 「いずし観光センター」物産販売事業
5. 「和カフェ」飲食販売事業
6. 「出石びっ蔵」集合貸店舗事業
7. 「大手前駐車場」運営事業
8. 「いずしトラベルサービス」旅行業
9. 「出石永楽館」受託管理運営事業

(6) 主な地域貢献事業

1. 有子山城跡を登ろう会活動補助	16.4万円
2. 全国子ども落語大会協賛	3万円
3. すいっち出石協賛	5万円
4. 出石秋祭りだんじり実行委員会	3万円
5. 出石歴史文化交流館（武家長屋）	14.4万円
6. 出石初午祭奉賛会	45万円
7. 「いずし夢バル」チラシ補助	6万円
8. 永楽館歌舞伎お練り事業協賛	22.7万円
合 計	115.5万円

(7) 教育機関連携協力事業

1. 出石中学校トライやる協力（5日間）
2. 出石高校インターンシップ受け入れ（3日間）
3. 出石高校地域探究ⅠⅡ授業講師協力（2学期）3テーマ×8回

〔決議事項〕

第1号議案 第26期計算書類承認の件

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(1) 貸借対照表

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 67,409,543】	【流動負債】	【 13,378,017】
現金及び預金	54,091,342	買掛金	6,928,955
売掛金	3,696,661	未払金	2,902,630
商 品	4,943,507	前受金	286,760
貯 蔵 品	45,655	預 り 金	1,058,572
未 収 入 金	3,431,378	法人税等充当金	632,400
仮 払 金	1,201,000	未払消費税	1,568,700
【固定資産】	【 203,972,809】	【固定負債】	【 17,177,779】
(有形固定資産)	(197,739,209)	長期借入金	13,309,000
建 物	14,952,272	預り保証金	3,868,779
建物附属設備	5,154,085	負債の部計	30,555,796
構 築 物	43,657	純資産の部	
什 器 備 品	11	【株主資本】	【 240,999,356】
一括償却資産	229,184	[資 本 金]	[98,000,000]
建設仮勘定	550,000	[利益剰余金]	[142,999,356]
土 地	176,810,000	利益準備金	24,500,000
(投資その他の資産)	(6,233,600)	(その他利益剰余金)	(118,499,356)
出 資 金	10,000	退職給付積立金	4,405,000
保 証 金	3,550,000	まちづくり積立金	6,193,000
保 険 積 立 金	2,673,600	別 途 積 立 金	93,000,000
【繰延資産】	【 172,800】	繰越利益剰余金	14,901,356
繰 延 資 産	172,800	(うち当期純利益)	(8,941,709)
		純資産の部計	240,999,356
資産の部計	271,555,152	負債・純資産の部計	271,555,152

(2) 損益計算書

(単位：円)

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月31日

科 目	金	額
【売上高】		
売上高	193,536,401	
飲食売上	14,986,990	
案内等収入	2,292,245	
レンタル収入	1,148,700	
駐車場売上	24,737,125	236,701,461
【売上原価】		
期首棚卸高	4,948,077	
仕入高	124,621,170	
材料費	6,550,808	
合計	136,120,055	
期末棚卸高	4,943,507	131,176,548
売上総利益		105,524,913
【販売費及び一般管理費】		97,672,403
営業利益		7,852,510
【営業外収益】		
受取利息	512	
受取手数料	1,083,000	
雑収入	3,619,189	4,702,701
【営業外費用】		
支払利息・割引料	57,211	
寄付金	400,000	
雑損失	86,262	543,473
経常利益		12,011,738
税引前当期純利益		12,011,738
法人税等充当額		3,070,029
当期純利益		8,941,709

(3) 販売費及び一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月31日

科 目	金 額	
役 員 報 酬	1,350,000	
給 料 手 当	31,436,000	
退 職 金	100,000	
退職給付積立金取崩	△100,000	
福 利 厚 生 費	7,853,374	
雑 給	16,280,660	
シルバー委託費	5,471,664	
広 告 宣 伝 費	2,273,809	
運 賃	179,150	
燃 料 費	65,447	
衛 生 費	487,979	
購 読 費	44,800	
水 道 光 熱 費	7,016,063	
事 務 費	1,529,000	
消 耗 品 費	2,187,932	
地 代 家 賃	600,000	
支 払 保 険 料	632,697	
修 繕 費	329,800	
租 税 公 課	7,732,900	
減 価 償 却 費	3,135,922	
繰延資産償却費	172,800	
接 待 交 際 費	757,812	
旅 費 交 通 費	614,723	
通 信 費	831,859	
支 払 手 数 料	2,284,100	
賃 借 料	766,062	
諸 会 費	660,310	
舞 台 維 持 費	1,793,660	
会 議 費	28,539	
雑 費	1,155,341	
合 計		97,672,403

株主資本等変動計算書

株式会社 出石まちづくり公社

(単位：円)

自 令和 5年 4月 1日
至 令和 6年 3月 31日

(4) 株主資本等変動計算書

	株 主 資 本					自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金					
当期首残高	98,000,000			24,500,000	111,127,647		233,627,647			233,627,647
当期変動額										
剰余金の配当					△1,470,000		△1,470,000			△1,470,000
退職給付積立金取崩額					△100,000		△100,000			△100,000
当期純利益					8,941,709		8,941,709			8,941,709
当期変動額合計					7,371,709		7,371,709			7,371,709
当期末残高	98,000,000			24,500,000	118,499,356		240,999,356			240,999,356

	利 益 剰 余 金 の 内 訳					
	利 益 準 備 金	退 職 給 付 積 立 金	そ の 他 の 任 意 積 立 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 合 計
当期首残高	24,500,000	4,505,000	6,193,000	85,000,000	15,429,647	135,627,647
当期変動額						
剰余金の配当					△1,470,000	△1,470,000
剰余金の内訳科目間の振替				8,000,000	△8,000,000	0
退職給付積立金取崩額		△100,000				△100,000
当期純利益					8,941,709	8,941,709
当期変動額合計		△100,000		8,000,000	△528,291	7,371,709
当期末残高	24,500,000	4,405,000	6,193,000	93,000,000	14,901,356	142,999,356

(5) 個別注記表

株式会社 出石まちづくり公社

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料……最終仕入原価法による原価法

商品……最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……平成10年4月1日以後に取得した建物及び平成28年4月1日以後に
取得した建物附属設備・構築物は定額法、それ以外は定率法

無形固定資産……定額法

収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理……税込方式で計上している。

2. 貸借対照表に関する注記

固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額……57,071,266円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

①当事業年度末日における発行済株式の数……1,960株

②当事業年度末日における自己株式の数……0株

③当事業年度中に行った剰余金の処分に関する事項

令和5年6月23日開催の第25期事業年度の定時株主総会で決議

配当金の総額(年1.5%)……1,470,000円

別途積立金の積立額……3,500,000円

④当事業年度末日以後に行う剰余金の処分に関する事項

令和6年6月24日開催予定の第6期事業年度の定時株主総会で決議予定

配当金の総額(年1.5%)……1,470,000円

配当の原資……利益剰余金

1株当たりの配当金……750円

配当基準日……令和6年3月31日

別途積立金の積立額……2,000,000円

繰越利益剰余金……11,431,356円

4. 1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額……122,958円85銭

1株当たりの当期純利益金……4,562円09銭

監 査 報 告

私監査役は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの第26期事業年度における貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表、事業報告および附属明細書を監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

令和6年5月28日

監査役 宮崎 雅 巳

監査役 佐古 忠 隆

報 告 書

以上のとおりご報告申し上げます。

令和6年6月24日

株式会社 出石まちづくり公社

代表取締役社長 榮木 健二

代表取締役副社長 古田 智久

取締役 永井 秀和

取締役 田中 覚

取締役 中易 裕明

取締役 永澤 仁

取締役 遠藤 朱実

剰余金処分案

(単位：円)

科 目	金	額
当期未処分利益の処分		
【繰越利益剰余金】		14,901,356
【利益処分数】		
株主配当金(年1.5%)	1,470,000	
別途積立金	2,000,000	3,470,000
【次期繰越利益】		11,431,356

上記のとおりご提案申し上げます。

令和6年6月24日

株式会社 出石まちづくり公社

代表取締役社長 柴木 健二

第3号議案 第27期営業計画案承認の件

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

観光庁は令和6年度も【観光立国推進基本計画】に掲げる3つの戦略に基づき、各種施策を推進していく方針を発表しました。1.「持続可能な観光地域づくり」では観光産業の収益力・生産性を向上させ、地域社会・経済に好循環を生む仕組みづくりを推進、2.「地方を中心としたインバウンド誘客」では消費額拡大・地方誘客促進を重視、3.「国内交流拡大」では人口減でも国内旅行の実施率向上、滞在長期化を図るなどを掲げています。

それらの方針はとても重要な事であり、実施し実現できることがベストではありますが、地方における観光経済は決して良い状況ではありません。エネルギー価格の高騰、物価高における消費の減少、日常必需品以外の買い控えなど、非日常を演出する観光産業にも大きな影響が出てきており、観光目的・滞在の楽しみ方など、旅行トレンドの変容は顕著に見受けられる中、出石観光を今一度見直す必要があると考えます。

その為に、組織の枠組みを越えて出石町全体での取り組みが不可欠です。そこで、まちづくり団体代表者会議では、出石観光に関する具体的な課題を共有し、少しずつでも解決していく事ができるよう主体的に関わって参ります。

未来の人材育成を目的として、出石高等学校と連携を図り、2・3年生を中心に「地域探究授業」を行っています。まちづくりの会社である以上、次世代との関りの中で郷土愛を醸成し、将来の出石を担ってもらえるよう、より一層力を入れて取り組んで参ります。

営業面では今期全体売上で2億4000万円を目標として、更なる増収増益を目指し役職員一丸となり取り組んで参ります。営業目標を達成するためにも、昨年同様引き続き取り組んでいくべき事と、新たに挑戦していく事をしっかり見極め、営業上の成果に結び付けたいと思います。

今期はこれらの背景や情勢を踏まえ、以下の事を重点的に取り組みます。

《令和6年度における重点事業項目》

- ・ 地域内資源を活用した商品開発の推進
- ・ インバウンド受入環境整備の推進
- ・ 「ひょうごフィールドパビリオン」に向けての観光コンテンツの開発
- ・ 有子山城築城450周年事業実行委員会との連携・協力
- ・ 第14回「永楽館歌舞伎公演」への積極的な運営連携と広報活動の強化
- ・ 地元教育機関との連携した地域愛育む人材育成の推進
- ・ BCP計画の策定にむけた各諸団体との連携

※BCP（災害など緊急事態における企業や団体の事業継続計画）

上記のとおりご提案申し上げます。

令和6年6月24日

株式会社 出石まちづくり公社